



—病院理念— 「愛し愛される病院」

—基本指針—

- 1、私たちは、患者様、ご家族に「おもいやり」をもって接します。
- 1、私たちは、地域に信頼され貢献できる医療を提供いたします。
- 1、私たちは、患者様の在宅復帰を支援いたします。
- 1、私たちは、診療記録を正確に記載いたします。
- 1、私たちは、自己研鑽しよりよい病院を目指します。

【患者様の権利】

- 1、患者様は医療に関する説明を十分受けた上で、治療を受ける権利又は拒否する権利が有ります
- 2、患者様は医師、医療従事者が患者様の知り得た個人情報を守られる権利が有ります
- 3、患者様は病院、医師を自由に選ぶ権利が有ります
- 4、患者様は安全で適切な医療を平等に受ける権利が有ります
- 5、患者様は診療録の開示を求める権利が有ります

ごあいさつ

このたび、上尾中央医科グループの人事異動により、3月21日付けで杉並リハビリテーション病院の事務長として着任いたしました富永と申します。

大役を仰せつかり、責任の重さを痛感しております。

歴代の事務長方々には、遠く及ばぬ若輩者ですが、患者様やご家族の方々、地域住民の皆様、私たち職員も含めて幸せな生活が送れるよう、皆様に助けをいただきながら、精一杯がんばりたいと思います。どうぞ、よろしく願いいたします。

「杉並リハビリテーション病院」は、この名称でリハビリテーション中心の医療を提供することになって、平成27年4月で8年目に入っております。

今まで以上に患者様に質の高いリハビリを提供し、患者様が在宅へ復帰できるように、少しでもお手伝いできればと考えております。

皆さまに信頼され、「愛し愛される病院」となるよう、職員一同精一杯努力してまいりますので、引き続きよろしく願いいたします。

事務長 富永 智己



平成26年度・東京都脳卒中医療連携協議会講演会 満員御礼！



◀ 当院・門脇が世話人を務める区西部
脳卒中医療連携協議会講演会の様子



▶ 関啓子先生



▶ 門脇親房院長

さる3月3日(火)に東京都から委託を受け運営している東京都脳卒中医療連携推進事業の区西部二次保健医療圏(杉並区・中野区・新宿区)圏域別検討会における医療従事者対象の講演会を『中野コンgresクエア』にて開催致しました。

今回は「脳卒中と高次機能障害」の演題で、神戸大学大学院保健学研究科客員教授で三鷹高次脳機能障害研究所・所長の関啓子先生にご講演いただき、医療・介護連携の要となるケアマネージャーを中心とした約70名の医療従事者がつめかけ、熱気あふれる講演会場は満員御礼となりました。

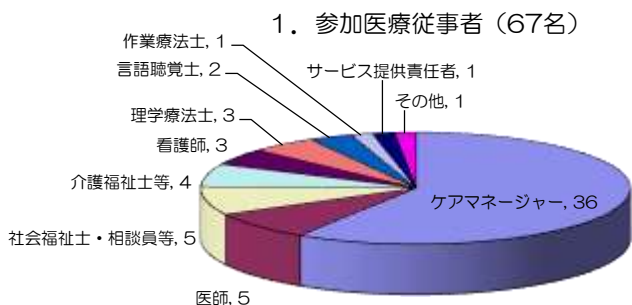
言語聴覚士であられる関先生は2009年に脳梗塞を発症されました。今回のご講演は、脳血管疾患のメカニズムとご自身の経験(発症時の心境、急性期および回復期リハビリの実体験、障害に対する世間の誤解などの苦い経験など)とを合わせた臨場感ある内容で、参加者は固唾を呑んで聞き入っていました。

なかでもご自身の夜中までリハビリに励む努力、ご家族の理解と支援があってこそ驚異的な回復が叶ったこと、また、ヘレン・ケラーやフジコ・ヘミングを引用し障害が自身に与えた影響について語られたことが非常に印象的でありました。

おおやま のりお
総務課・大山 徳郎



関啓子先生がご講演されたご自身の体験談は著書『「話せない」と言えるまで ~言語聴覚士を襲った高次脳機能障害~』(医学書院)『まさか、この私が ~脳卒中からの生還~』(教文館)を是非ご一読ください。



2. 講演内容について



- 発症直後と現在に至るまでの発話の比較など実場面で経験していてもこういったかたちで拝聴する機会が無かったので大変勉強になりました。本日は参加出来て医療者の立場から患者さんの気持ちを教えていただけで本当によかったです。今後も益々のご活躍をお祈り申し上げます。(医師)
- 障害を感謝出来るとはすばらしいことと思います。(看護師)
- 当事者の話を伺う機会は今まで何度かありましたが、臨床家である言語聴覚士の方の体験を伺うことが出来るととても刺激的でした。自己フィードバックの大切さを改めて気づきました。(言語聴覚士)
- 失語症について、わかっているつもりでいたことを反省いたしました。先生のお話を聞き支援する立場のものとして理解を深めることができました。当事者、支援者に知識・病識があるかないかで大変大きな差があると認識いたしました。(ケアマネージャー)

さらに愛し愛される為に…



認知症認定看護師研修へ参加

回復期リハビリテーション病棟の特徴として入院患者さんの病名・症状が特定されることがあげられます。主な疾患は、整形外科疾患（主に骨折）脳血管疾患、廃用症候群です。疾患は特定されますが高齢化に伴い共通して認知症を合併している患者さんが多く入院されます。脳血管性の認知症はもとより、認知症が原因で骨折する症例も入院患者さんの4～5割を占め、又骨折を基に認知症が進行する場合があります。認知症は回復期リハビリテーション病棟の目的である在宅復帰に大きな影響を与えます。認知症の中核症状である失行、身体に影響を及ぼすリロケーションダメージなど日常生活の要である摂食・嚥下・排泄・更衣動作などの自立には認知症の理解とあたたかい対応が必須だと考えています。

日々のケアの中で認知症を専門的に学びたいとの希望がある看護師よりあがり、このたび当グループにて整備されている資格支援体制を活用し、初めて認知症認定看護師研修（約1年間）に参加することになりました。回復期リハビリテーション認定看護師と共に実践・指導・相談を担い、質の高い看護の提供に貢献してくれることと信じております。

看護部長 そのだ 園田 のりみ 祝美

健康になれる地域づくりを！

リハビリテーション科健康教室グループ活動中！



平成26年7月より始動したリハビリテーション科健康教室グループは、『地域住民を健康にしよう！』を活動目標にあげ、地域の医療・介護スタッフの皆様と協同して、院外活動を実施しました。平成26年度はケア24の協力の元、からだについてのミニ講座やミニ測定会、からだ改善の健康体操など11回実施し、延べ150名を超える地域住民の皆様に参加していただきました。どれも好評をいただいております。

これらの活動は、本グループメンバーが地域の実情を知る機会にもなりました。将来的には地域住民の参加者の中から支援者が生まれるような取り組みを目標に、地域の方々が自分で、またお互いに楽しく健康になれる地域づくりに貢献していきたいと考えています。

また、当グループは病院職員を対象としたヨガ教室やアロマ教室も実施しており、職員の健康づくりにも貢献しております。



リハビリテーション科
理学療法士 つるまき 弦巻 さやか 沙矢香

～当院の現況～

	平成 27 年 2 月	平成 27 年 3 月	平成 27 年 4 月
稼働率	98.8%	98.9%	98.4%
入院延べ患者数	2,795 人	3,096 人	2,983 人
在宅復帰率(直近 3 ヶ月).....			93.2%
重症患者割合(直近 6 ヶ月).....			37.1%
重症患者回復病棟改善割合(直近 6 ヶ月).....			41.8%
*重症患者.....日常生活機能評価で10点以上の新規入院患者の割合			
*重症患者回復病棟改善...重症患者のうち4点以上の者が改善している割合			

交通のご案内



- JR中央線・総武線 西荻窪駅下車 北口 徒歩2分
- 青梅街道 桃井4丁目交差点より西荻窪駅方向約1km
西荻窪駅前信号を左(一方通行)

病院概要

開 院	／	昭和43年10月
理 事 長	／	上野 聡一郎
院 長	／	門脇 親房
病 床 数	／	101床(4床室・個室)
診 療 科 目	／	内科・リハビリテーション科
診 療 時 間	／	毎週 月・火・水・木・金 9:00~12:30

発行責任者	／	門脇 親房
発 行	／	杉並リハビリテーション病院 総務課

医療法人社団 瑞心会 杉並リハビリテーション病院

〒167-0042 東京都杉並区西荻北2-5-5

TEL.03-3396-3181(代) FAX.03-3396-3186(代)

<http://suginami-reha-tokyo.jp/>